子連れで研修会&交流会に参加して

会員ライフサポート部活動報告
第22報

佐藤　幸子（帝京大学医学部附属溝口病院）

今回、初めて“子連れ”で研修会に参加しました。ライフサポート部の企画で、同室内に託児スペースがあり、少人数とのことなので、子連れ参加でも大丈夫？実体験も大切と思い、同伴で参加してみました。

講演の序盤、「椅子は万能ではなく“セラピストが作れない姿勢は、シーティングで再現できない！”」の言葉に聞き入ると、“ままぁ〜、こっちぃみてぇ〜”足にまとわりつく物体、まだ遊んでくれるスタッフさんに馴染めず。正面を向き聞こうとすると“抱っこ〜”がはじまり、他のお子さんがいる手前、お菓子を与えるわけにもいかず、うちの2歳チョロ子の大きな声はやや？迷惑！。5歳君たちは、スタッフを相手にスペース内でおもちゃや書き物遊び、2歳チャンはママの横に座って何やら遊び、8カ月の赤ちゃんもマットでお座り、理事やママ抱っこ後はお昼寝。年齢や個性？もあるのでしょうが、チョロ子との参加はやや後悔。講演は進み、ダンボールや発泡スチロールを利用した適合の工夫や新たな骨盤サポートの紹介など、臨床にすぐ使えそうな話や骨盤調整の実技体験など、短時間ながらなかなか盛り上がっていました。

昼食を取りつつの交流会では、お子さんが出来たばかりの方、チョロ子世代の育児の方、やや手が離れるようになった方と参加者の境遇は様々で、スタッフの経歴も交えると多彩な話を聞くことができました。私自身、ライフサポート部の活動に立ち上げから関わってきて、情報も知識も増えていましたが、現実に子供が生まれライフスタイルの変更によって、就業先の業務だけでも今までのように働けず、サポート部活動も眺めることが主体で…、日々働いていくことは大変というのが現実です。そのような中で、自由が長い？私だからか、同伴での参加をまず!!コリゴリと感じましたが、子育てで研修会参加から遠のいてるママさんは、今回の参加で県士会を身近に感じることができたと感想を述べられていました。非常勤で活動されているママさんにも好評でした。ライフスタイルの変容だけではなく、個々の置かれている立場や経歴、感じ方よっても異なるようです。確かに私の現状では、高齢者車椅子のポイントを聞け、子育て期でも異なることを知りえたことは大収穫なのですから。また、PT資格化から40年以上となり、世代間でも変化がでるようでした。午後からは子供たちもこの状況に慣れ、スタッフさんに本を読んでいただいたり、高い高いなどもしてもらい…子守り、ホントにお疲れ様でした。

私自身もともと、研修会・勉強会には、新たな知見の吸収だけでなく、仕事に前向きな気持ちになれる貴重な時間として役立つので、割と参加していました。スタッフとして関わることも多くありました。復帰後も夫や実家の父母に預け、何とか年2 〜 3回位は参加してますが、日程の調整や子供の体調・日に子守りを頼む心理的な負担などで遠のくのが現状です。知識や技術を得ることはもちろん大切なのですが、生活や子育てについての情報を得ることは、よりよく働くために大切なことと、改めて感じました。私は主に提供する立場の継続は難しく、利用する立場と主とさせて頂く事としました。士会の活動はボランティア的要素も多いのですが、自分にとっては他愛のないことも、他の人にとっては重大なこともあり、“情けは人の為ならず”なので、今後も無理しすぎること、引きすぎることもなく、参加していけたらと思っています。

会員皆様のより良い就業の継続のために、今一度、個々人が関わり見直していただけたらと思います。